

木之本宿問屋跡地

イオニア式の円柱が印象的なこの高いネオクラシック様式の建物からは、刀を帯びた武士や幕府役人の姿は想像しにくい。しかし、江戸時代（1603年～1867年）には、馬を乗り継いだり旅の書類を調達したりするために、多くの旅人がここに立ち寄った。当時はこの場所には伝統的な木造建築が建ち問屋が入っていた。1935年に洋風の銀行に建て替えられた。現

在、この建物はきのもと交流館となっており、年間を通じて文化イベントが開催されている。

木之本牛馬市

北国街道のこの区間では、半年に一度牛や馬が売買される木之本牛馬市が開かれていた。

この市は室町時代（1392-1573）に始まり、20世紀初頭まで開催された。買い手候補は売り手の袖の中に手を突っ込み、売り手の指を握ったり曲げたりして値段を示す。取引が成立すると、買い手と売り手の双方が拍手し、これが拘束力のある契約合意となっていた。